

## もうまく基金への応援メッセージ

もうまく基金の活動目的に賛同してくださった皆様から、熱い「応援メッセージ」をいただきました。一部をご紹介します！（表記のご所属や役職は2008年7月31日現在のものです）

社団法人日本眼科医会 会長  
三宅 謙作 先生

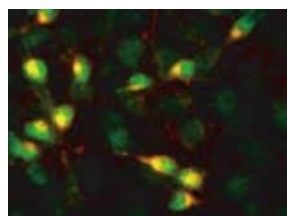
眼科学・医療に関連する診断法と治療法において、この数十年著しい進歩を遂げております。糖尿病性網膜症、緑内障、白内障等失明につながる疾患はこの恩恵を受け、治療後は大きく改善されてきました。そんな中でこれらの進歩に取り残され、依然として難治な眼疾患の代表が網膜色素変性症等、網膜変性疾患です。本基金は大変重要な基金であり、私も眼科専門家として、同時に本疾患治療法開発を一步でも進めるため、この基金が一日も早く有効な働きが出来るよう、主体的に応援したいと考えております。

慶應義塾大学 名誉教授  
小口 芳久 先生

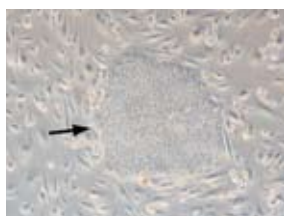
1980年代に網膜の再生とか人工網膜などという白い眼で見られていました。今ではこれらの研究は最先端の研究として若い優秀な研究者が取り組んでいます。しかしながら白内障、緑内障などと異なり目先の利益を重んじる企業の協力はなかなか得られないのが実情です。日夜、視覚障害で悩み、苦勞をされている患者さんを少しでも助けるために、国民全体が網膜変性疾患に関心を示し、本研究基金がその治療法の開発に貢献することを期待します。

理化学研究所発生再生科学総合研究センター  
網膜再生医療研究チーム チームリーダー  
高橋 政代 先生

我々の研究には患者さんの存在が大きな意味を持ちます。その存在は研究のモチベーションの源であり、またそこを目指してすすめば道を踏み外すことはないゴールだからです。未知の危険を伴う新しい治療研究は、患者さん方の強い要望と覚悟がなくては進みません。この会が社会的に大きな力を秘めていること、それは研究者や医者まかせの受け身ではなく、障害を乗り越える自立した心を持って疾患の治療研究を共に進めるのだという意識が高まった時に生まれるのだということを思います。医療者と患者が共に同じ方向を向いて疾患に立ち向かうという医療の本来の姿がここで実現することを願って応援いたします。



ES細胞からできた視細胞



iPS細胞

### このパンフレットを手にとってくださいました皆様へ

こんにちは、もうまく基金です。

網膜変性研究基金は、「治療法の確立」をよりいっそう支援する目的で私たち自らの手で「治療法の確立とQOLの向上を！」をスローガンに掲げる日本網膜色素変性症協会（JRPS）を母体として誕生いたしました。

「治療法の確立」において私共患者にできること、それは「研究支援のための資金を集めること」に他なりません。そのために私共は網膜疾患について広く皆様に知っていただき、研究支援のご寄付をお願いする次第です。皆様の一助が、賛同の輪になり、やがてその輪が更に大きく広がり、大きなうねりとなって、「治療法の確立」が実現されることを願ってやみません。どうぞ、このパンフレットをご覧ください、私共網膜変性研究基金の活動について、ご理解をいただければ幸いです。

末永きご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

### 夢 それは 治療法の確立

何気ない日常の出来事をあなたと同じタイミングで共有したい。そして、明日という未来に向かってあなたと共に歩んでいきたい。そんな私達の夢を応援して下さい。



特定非営利活動法人 網膜変性研究基金（愛称：もうまく基金）

〒140-0013 東京都品川区南大井2-7-9  
アミューズKビル4F（日本網膜色素変性症協会内）  
TEL.03-6459-6663 FAX.03-6459-6665  
E-Mail: info@moumaku.jp  
URL: <http://www.moumaku.jp/>

Retina Degeneration Research Fund NPO

青い空・白い雲・星の輝き  
もう一度この目で見たい

見えない・見えにくい私達は治療法の確立を目指しています。応援して下さい。



特定非営利活動法人 網膜変性研究基金